

(第6条関係)

## 事業概要書

事業名	子どもたちがつくる青少年会館居場所事業
団体名	だいすき松戸!子どもフェスティバル実行委員会
事業担当課	生涯学習推進課 青少年会館

取り組もうとする松戸市のテーマ (課題)	<p>昨今、子ども(小学生)は保護者の就労や核家族化等により一人で過ごすことが多く、安心して過ごせる“居場所”が少なくなっている。</p> <p>松戸市社会教育計画策定の際「放課後や休日に小中学生が地域の人と生涯学習活動をするのにふさわしい場所」の調査によると、保護者のニーズとして回答の2/3近くを占める1位として「地域の公共施設」が挙がっており、また「安全」「近さ」といった要素が子どもの活動場所に求められている。</p> <p>このように、今後の松戸市の未来を担っていく人材育成のため、さまざまな体験を通じて仲間をつくり、仲間や地域の人たちと触れ合うことの出来る社会教育の時間と場所が必要とされている。</p> <p>他方、子どもの居場所に関して、「場所(空間)」だけを用意していても子どもたちがなかなか集まってこない、あるいは、学校のクラス数人の人間関係での遊びにとどまってしまう。子どもの成長には「時間」「空間」「仲間」の「サンマ(3つの間)」が大切と言われているが、松戸をはじめとする都心近郊の地域社会では、都市開発や防犯・遊びの産業化による変化によって、「サンマ」が得にくく、身の回りに少なくなっている。</p> <p>H29年6月現在、協働事業を青少年会館に取り掛かり始めたところであるが、H30年度も仲間を広げたり、地域の人たちとふれあったりするため、体験を通じて子ども同士がつながる取り組みをさらに提供していく、市民と青少年会館が協働する本事業を提案する。</p>
事業の目的	<p>H29年6月現在、協働事業1年目実施中の内容に引き続き、目的を、大きく3つに分けて掲げる</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 小学生同士のつながり・仲間づくりを目指す「サンマ」の提供</li><li>(2) 子どもに関わる担い手育成による持続的なコミュニティ形成</li><li>(3) 青少年会館という拠点を核とした世代間交流</li></ul> <p>青少年会館(松戸市新松戸南2-2)で、小学生を対象とする放課後体験プログラムと、ロビーワークをセットで実施し、子ども同士のクラス・学年を超えた交流と仲間づくり、また、近隣高校・大学生との交流や、青少年会館利用団体の関係者を中心とした、大人との体験を通じた交流を図り、仲間づくり、社会教育の機会提供に努める。</p>
事業内容	<p>①子どもに関わる担い手育成プログラム</p> <p>青少年会館で開催予定の「子どもに関わる担い手発掘事業」と連携し、子どもの発達・育ちや人権について学んだ講座生からコミュニティを生み出し、事業の担い手を養成する。広報にあたっては近隣高校・大学への個別の声掛けと、子どもフェスティバルゲームリーダー・当日ボランティアへの声</p>

	<p>掛けを前記講座と併せて実施、自主企画集団の形成に努める。</p> <p>②子どもとの体験プログラム&amp;ロビーワーク</p> <p>会館の事業スケジュールを下地に、3つの時期に分けて事業を実施する。各期間、週2回程度、放課後時間帯を中心に予定している。いずれもH29年度実施中のものを下地に、よりよい活動に向けてフィードバックをかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月・小学生の夏休み期間に合わせて</li> <li>・11月初頭に開催の文化祭に向けて</li> <li>・2月末開催のアートパフォーマンス祭りにに向けて</li> </ul> <p>小学生が学生と一緒にお祭りのブース出展（例えば、迷路やお化け屋敷など）を、子どもたちの意見を中心に企画する。</p> <p>また、青少年会館をよく利用する団体、例えば、演奏団体・演劇団体・版画等芸術団体と連携・協働し、居場所づくりや体験プログラムを通じて、地域の大人との交流、自然には進みにくい同じ「場」の利用者間の交流を図る。</p> <p>①、②については、29年度夏の実施状況等も鑑み、協議のうえ具体化する。</p>
協働の必要性	<p>これまで青少年会館では多様な講座（青少年教室）を実施しているが、会館の日々の利用の中で、なかなかロビーにいる小学生への関わり（ロビーワーク）が気になっていても関係づくりまで事業化できていなかった。</p> <p>本事業の提案者「だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会」は、市内の子どもに関わる事業を展開しているNPOが連携・協働している団体である。松戸市内の子どもたちに向けたイベントを年1回のペースで開催して来たが、各団体が特色のある遊び（エコトンボづくり、新聞の海、皿回しなど）を持っていたり、学生～若者に依る企画や、当日学生ボランティア（前回実績100名超）の運営に強みを持っていたりする。</p> <p>これまでの当フェスティバルや、個別の団体ごとの連携・協働はあったが、多様なプログラム・担い手の特性を組み合わせ、かつ地域の学生・大人を巻き込んだコミュニティづくりは、青少年会館という場所と、各団体のプログラム・ソフトを組み合わせこそ実現でき、行政・NPO双方が目指す子どもの育ち、次世代育成のコミュニティ形成につながると考えている。</p>
事業の目標	<p>①子どもに関わる担い手育成プログラム</p> <p>講座定員を50名として実施し、継続的に本事業に加わるボランティアを8名程度確保する。</p> <p>②子どもとの体験プログラム&amp;ロビーワーク</p> <p>定期的に参加し、興味を持つ小学生、互いの「顔が見える」関係の参加者が10人程度となるよう、支えていく。</p> <p>29年度実施の「青少年会館キッズメンバー」を、これらの企画に継続的に主体者として巻き込みを図る。</p>

(第6条関係)

## 事業の予算概要

【労力換算（限度額算入）】

(単位:円)

区分	科 目	金 額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 380,584	

【収 入】

区分	科 目	金 額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 0	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
	小学生実費負担	¥ 10,000	500円×20人、夏休み啓発イベント
		¥ 6,000	200円×30人、クリスマス会
	自己資金の合計額 (B)	¥ 16,000	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 135,200	
	合計額(D)=(B+C)	¥ 151,200	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 20,000	研修会講師謝金 (2回・10000円)
		¥ 18,000	夏休みボランティア団体謝金
	消耗品費	¥ 50,000	模造紙・付箋紙等会場掲示物作成、コピー用紙等
		¥ 10,000	調理体験・食材
		¥ 20,000	材料費
	食糧費	¥ 13,200	協力講師・ボランティアお茶代等 1回300円×44回
	印刷製本費	¥ 10,000	チラシ(カラー表裏) 3000枚
		¥ 10,000	研修&ボランティア募集3000枚
	対象経費の合計(E)	¥ 151,200	
(その他経費)			
	その他経費の合計額(F)	¥ 0	
	合計額(G)=(E+F)	¥ 151,200	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×842円
	会館との打ち合わせ (10回)	50,520 円	3 人 × 2 h × 10 回 × 842 円
	夏休み子ども活動日 (単独)	98,514 円	3. 人 × 3 h × 13 回 × 842 円
	夏休み子ども活動日 (連携)	25,260 円	2 人 × 3 h × 5 回 × 842 円
	平日子ども活動日 (単独)	83,358 円	3 人 × 3 h × 11 回 × 842 円
	平日子ども活動日 (連携)	75,780 円	2 人 × 3 h × 15 回 × 842 円
	クリスマス会	16,840 円	5 人 × 4 h × 1 回 × 842 円
	チラシ制作	10,104 円	1 人 × 6 h × 2 回 × 842 円
	報告書制作	20,208 円	2 人 × 4 h × 3 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
	合 計 (A)	380,584 円	